

令和7年度 第1回 小平市地域公共交通会議 会議要録

■ 日 時

令和7年6月20日（金）14時00分から15時22分まで

■ 場 所

市役所3階 庁議室

■ 出席者

小平市地域公共交通会議委員 14人（うち4人は代理出席）
※欠席2人（東京ハイヤー・タクシー協会、小平警察署）
事務局（都市開発部 公共交通課） 2人
※傍聴者 0人

■ 会議次第

- 1 開会
- 2 挨拶・自己紹介
- 3 一般乗合旅客自動車運送事業（南西部地域におけるデマンド型交通の実証実験運行）の事業計画変更認可について（協議）
- 4 令和6年度コミュニティバス・コミュニティタクシー乗車実績について（報告）（資料1-①②）
- 5 令和6年度ぶるべ一号利用者アンケート集計結果について（報告）（資料2）
- 6 南西部地域におけるデマンド型交通の実証実験運行について（報告）（資料3）
- 7 「バスとタクシーのひろば in 小平 2025」について（報告）（別紙）4
- 8 その他
- 9 閉会
※閉会後に現状や取組状況等について（情報交換）

■ 配布資料

資料1-① 令和6年度コミュニティバス・コミュニティタクシー乗車実績
資料1-② コミュニティバス・コミュニティタクシー乗車人数の推移
資料2 令和6年度ぶるべ一号利用者アンケート集計結果
資料3 小平南西部地域におけるデマンド型交通の実証実験運行について
別紙 「バスとタクシーのひろば in 小平 2025」開催報告

■ 会議内容

1 開会

- ・都市開発部長の挨拶、出席委員数及び資料の確認
- ・出席委員14人で過半数となっていることから会議が成立
- ・傍聴者の確認

2 挨拶・自己紹介

○都市開発部長の挨拶

- ・バスとタクシーのひろば2025について、関係者の協力のもと5月18日に開催。今年の

会場は新東京自動車教習所で、この会場では2回目の開催となる。当日は天候にも恵まれ、来場者はおおむね3千800人で、市にとっての一大イベントになっている。

- ・小平市で初となる南西部地域におけるデマンド型交通の実証実験が5月30日をもって1年間の実証実験を終了。本日は実施結果の速報値を報告するとともに、終了することの協議をお願いします。

○委員の交代・新委員挨拶

- ・前回の会議以降、3人の委員が交代。新しい名簿を机上配付。

新委員（関東運輸局 小林委員）

4月から東京運輸支局での勤務となった。異動前は千葉にいた。今後ともよろしくお願いたします。

○事務局職員の交代・挨拶

- ・4月1日の異動で公共交通課係長が交代 小島係長 挨拶

会長

5月に開催された「バスとタクシーのひろば」は天候に恵まれ、たくさんの参加者があったということで、改めて皆さんに感謝を申し上げたい。

傍聴者はいないということを確認した。これより議事に入りたい。

3 一般乗合旅客自動車運送事業（南西部地域におけるデマンド型交通の実証実験運行）の事業計画変更認可について（協議）（資料3）（14：05～14：43）

会長

この案件は、次第の6「南西部地域におけるデマンド型交通の実証実験運行について」の報告と関連するということなので、協議にあたり事務局から次第の6も合わせて説明をお願いします。

— 資料3に基づき、事業概要及び実施結果について事務局から説明（25分） —

事務局

- ・市の南西部地域において、令和6年6月10日から令和7年5月30日までの1年間、市で初めてとなるデマンド型交通の実証実験を行った。
- ・開始当初は、南西部地域を西武国分寺線を境に東西2つのエリアに分けて運行。
- ・東側を上水本町エリアとし、乗降場所32箇所、水、金曜日に運行。
- ・西側を鷹の台駅西側エリアとし、乗降場所37箇所、月、火、木曜日に運行。
- ・運賃は大人300円、こども150円。
- ・乗車人数が伸びなかったことから、課題を確認するためのアンケート調査を2回実施したとこ

ろ、「エリアを1つに統合して欲しい」、あるいは、「曜日を決めずに毎日運行して欲しい」という要望が多く出された。

- ・このことから、令和7年1月20日以降は、エリアを1つに統合し、平日毎日利用できるように運行システムを変更した。
- ・これにより、1日当たりの乗車人数が2.9倍に伸びた。
- ・エリア統合後の利用状況をみると、旧エリアを超えた新しい動きが生まれるとともに、旧エリア内での利用についても増加している。
- ・利用者の状況として、年齢層としては50歳以上の割合が多く、全体の66.4%で過半数を占める。また、1人での乗車が多く、全体の89.2%。
- ・エリア統合による変化として、統合前は2つのエリア内での乗車人数はほぼ同じ程度。エリア統合後の利用状況としては、上水本町エリアから鷹の台駅西側エリアへの移動が151人、鷹の台駅エリアから上水本町エリアへの移動が205人、また、注目したいのは上水エリア内での移動も増えている。同様に鷹の台駅西側エリア内での移動も増えていることが分かった。
- ・全期間を通した利用実績としては、237日間で利用件数が1,246件となっており、1日平均の利用件数は5.3件。
- ・資料3ページには利用の多かった乗降場所の上位15箇所と、一度も利用されなかった乗降場所を掲載している。
- ・利用登録者数は831人で、そのうち女性が6割。年齢階層別でも示している。
- ・注目しなければならないのは、登録はしたが、一度も乗らなかった、あるいは乗れなかった人が632人で、登録者831人のうち76.1%となっている、逆算すると、199人が利用しており、この199人が1,246回利用したということになる。こういったことについては今後分析していかなければならない。
- ・「資料3」と付番されたもう一つ資料は、2回目のアンケート調査の結果をまとめたもので、運行エリア変更後に実施したもの。
- ・運行エリアを統合したことで「行きたい場所に行けるようになった」、「利用したい曜日に利用できるようになった」といった回答が多くあった。また、「変わらない」と回答した人も43.7%あるが、これは利用していない人も回答しているためと思われる。
- ・一方で、「不便になった」と回答した人の理由としては、利用者が増えたことで、希望する時間に予約が取れなくなったといった声もあった。

会長

事務局の説明について何か質問、意見などがあれば。

私からの質問として、最初の資料3の3ページ目、乗降場所の番号について、この資料と実際の地図上の番号が一致していないが、これはどういうことか？

事務局

資料3の番号はシステム上の管理番号で、実際に使われた地図上の乗降場所の番号とはズレ

がある。

委員 (立川バス)

資料3の2ページ目の最後に、実証実験全期間における1日の平均利用件数が5.3件とあるが、エリア統合前はどうか？

事務局

エリア統合前の状況としては、資料の1ページ目の下のグラフに折れ線で示されているが、実証実験を開始した6月は1日平均の乗車人数が3.9人。その後、3.2人、2.4人と続いて、エリア統合前の1月は1月17日までの数値となるが3.1人。エリア統合前を平均すると、1日平均3.4人となる。

エリア統合後は7.3人、8.8人、10.8人と、エリア統合前と比べる3倍近くの数字となっている。

委員 (立川バス)

車両1台での運行ということだが、そうすると例えば、令和6年6月の1日平均3.9とあるのは稼働数として3.9回ということか。

会長

乗合がどの程度発生したかによって変わると思う。そのへんがどうだったかということ。

事務局

乗合の件数は捉えていない。

事務局

補足として、先ほど委員から質問のあった資料3の2ページ目の3.5件という数値は1日当たりの予約件数、つまり運行回数で、全期間を通したものとなる。エリア統合前は148日間で450件だったので、1日当たりでは3.0件。統合後の期間では、89日間で796件なので、1日当たりでは8.9件となる。

乗合の件数については具体的な数値は把握できていないが、システム会社からは色々なデータを取り寄せている。乗合が全く無かったということではないようだが、件数としては少なかったというのが実態と考えている。

会長

今回の実証実験の事業計画は、地域公共交通会議で計画を承認して進めてきた。本日の協議事項としては、この事業計画を終了するということについてだが、実証実験の実施結果を受けて、市として今後どうしていくか、何か予定などがあれば説明していただきたい。

事務局

今日は1年間の実証実験の実施結果を速報値として示させてもらった。今後については、「小平南西部地域コミュニティ交通をみんなで考える会（以下、「考える会」）」の中で実施結果について分析、評価、検証をしていかなければならない。そのうえで、今後南西部地域でどのような公共交通が適しているのかについて、考える会とともに協議し、1年間の実証実験の結果に関する報告する予定。

時期としてはできるだけ早く、秋口以降になると思うが、今年度の終わりには今後のあり方や方向性をまとめたいと考えている。

今回は1年間の実証実験の区切りとして、国土交通省へ事業終了の報告をしていく予定。

会長

今後のことも含めて、何か質問などはあるか。

委員（関東運輸局）

令和8年度以降に同じような形で再開するか、あるいは違うやり方になることもあると思うが、今回の登録者情報などのデータは引き継ぐのか？

事務局

現時点では今回の実証実験における登録者のデータなどをどうするかについては未定。しかし、この1年間のデータベースは今後データ分析を行うためには非常に価値があると考えている。年齢構成であるとか、例えば、10歳未満の子どもが週に何回も利用しており、これは塾通いによる利用と思われることなどがデータから読み取れる。このようなデータを次回、新しいコミュニティ交通を検討する際にデータベースとして活用したいと考えているが、現時点では今回のデータをどう扱っていくかは未定。

会長

それでは事業計画の変更について、つまり今回のデマンド型交通の実証実験事業を終了するという本日の協議をもとに国土交通省へ提出することについて、委員みなさんの了承をいただきたいと思うが、いかがか。

委員

了承する。

会長

ありがとうございます。それでは、そのように進めさせていただきます。

また、今後の南西部地域における公共交通について、どのような協議がなされ、分析がされて、

どのように進めていくかについては、逐次この会議でも報告をしていただき、今後のあり方について考えていきたいと思います。

4 令和6度コミュニティバス・コミュニティタクシーの乗車実績について（報告）（資料1-①、②） （14：43～15：00）

— 事務局から資料に基づき説明（10分） —

会長

事務局の説明について、質疑、意見があれば。

委員（関東運輸局）

コミュニティタクシーの利用人数が多く優秀と思われるが、利用者層はどうか？

事務局

資料としては準備していないが、コミュニティタクシーについては高齢者の利用が多いととらえている。利用形態でも、大沼ルートでは小平駅と昭和病院間の往復での利用が多い。他のルートにおいても比較的高齢者の利用が多い。

会長

運行事業者として、実際に運行してどうか？

委員（トーショー交通）

やはり病院に行きたいという高齢者が多い。利用者数は天気によって左右され、暑い日や雨の日などは多い。一方、春先など、気候が良いと歩かれる人もいる。いずれにしても、コミュニティタクシーは地域の高齢者の移動の足となっている。

会長

最多利用者の日が栄町ルートと鈴木町ルートが同じ7月12日となっているが、何か理由はあるか？

事務局

雨の日なので利用が多くなる傾向はあるが、同じ日となったのは偶然ではないか。

会長

これまでも申し上げてきたが、小平市のコミュニティタクシーの利用はすごい数字。コミュニティタクシーで1日の乗車人数が70人、80人、90人までいくことはまず無い。1日20～30人程度が一般的で、40人ぐらいまでいくと優秀と言われるような数字。

そうしてみると、小平市の70人以上というのは実はものすごい数字で、しかも、それがかな

りの期間続いているというのもすごい。当然のことながら、栄町ルートでは追走便もかなり出ており、多いがゆえの課題でもあると思う。

ほかに無いようであれば、この案件は報告事項なので、この状況を頭に入れていただければ。

5 令和6年度ぶるべー号利用者アンケート集計結果について（報告）（資料2）

（15：00～15：10）

— 事務局から資料に基づき説明（9分） —

会長

事務局の説明について、何か質問、意見などございますか。

委員

特になし

7 「バスとタクシーのひろば in 小平 2025」について（報告）（別紙資料）

（15：10～15：18）

— 事務局から資料に基づき説明 —（7分）

事務局

- ・職員は朝7時から現地入りしていたが、7時30分頃には茨城から始発で来たという人を含めて4人並んでいた。昨年度は千葉県から来た人もいて、関東エリアから来場している。
- ・会場に関しては、ここ数年は小川駅東側のブリヂストンのイノベーションギャラリー駐車場と、今回の新東京自動車教習所で交互に開催している。
- ・開催にあたり、ここに参加していただいている運行事業者のほか、会長が理事長を務めておられるNPO法人 日本バス文化保存振興委員会にも協力いただいている。
- ・来場者は3千800人と、年々多くなっている。
- ・事業者の協力により、展示しているバスの運転席やタクシーの運転席乗ることができたのは、子どもにとって貴重な体験となっている。さらに、写真まで撮っていただいたということで喜びの声も届いている。このようなことを通して小さな子どもが公共交通に興味を持っていただき、10年後、20年後につながっていければ非常に意義のあるイベントとなる。
- ・ボンネットバスの乗車体験は事前申込制で4倍近い倍率となった。
- ・バスとつな引きは、毎年関東バスの協力をいただき実施しているが、地域宣伝隊コダレンジャーも加わって大きなバスを引っ張った。
- ・教えて！バスぶら博士は、西武バスの車両を使わせていただき実施している。
- ・バイクのデモンストレーションは、教習所の教官の中に全国のコンテストで優勝する腕前のインストラクターも参加して好評だった。
- ・当日は来場者へのアンケートも実施し、298件回収。イベントの評価が高かった。自由意見では、新作のトミカが大好評で、開場前に200人弱の人が並んだ。西武バスのブースで行っ

ていたガチャガチャも、非常に良い品が出ているということで好評だった。

・なんと言ってもボンネットバスが人気で、親も見たことが無いということもあり、このようなバスが走っていたということを知る機会になっている。一方で、乗車人数に限りがあるため事前抽選となったが、抽選にもれた人からは「残念だった」、「もっと枠を増やして欲しい」という声もあった。

・展示に関しては、都バスも市内を走っているので、都バスの展示を望む声もいただいた。

・来年度はブリヂストンイノベーションギャラリー駐車場で開催予定。時期が来た際には声をかけさせていただくので、引き続きご協力をお願いします。

会長

事務局から説明に関して、何かありますか。

委員

特になし

会長

直接関わった方がほとんどなので、当日の状況はみなさんも承知していると思う。

来年も開催するというようなので、よろしくをお願いします。

8 その他（15：18～15：22）

○委員の改選について

— 事務局から説明 —

事務局

現在の委員任期が本年11月30日までとなっているため、今後各機関の代表者に新委員の選出について依頼していく。依頼の時期としては10月後半頃を予定している。

9 閉会

会長

それでは本日予定していた議事は全て終了し、以上で令和7年度第1回小平市地域公共交通会議を閉会とする。

長時間にわたり活発なご議論をいただき、ありがとうございました。

（15：22 閉会）

<情報交換> (15:22~15:51) ※会議終了後の部分となるため公表対象外。

会長

ここからは情報交換ということで、進行をさせていただきます。

関東運輸局) 改めてのお願いとして。東京都の都バスで乗客の置き去りが発生した。今年4月以降で3件発生。確認を怠った理由としては、トイレを優先した、食事を優先したというもの。

過去には路線バスではないが、幼稚園バスにおいて、幼い子どもが車内に置き去りにされて命を落とした事例もある。バスは閉じてしまうと車内が高温になって生死にかかわることにもなりかねないため、各事業者に改めて再チェックをお願いする。ここにきてかなり暑くなっているので、各社とも改めて注意していただきたい。

路線バスなので、子どもと言っても携帯電話などを持っていて、何かあればすぐに連絡を取れると思うが、高齢者においては乗車中に体調が悪くなって座席で横になると運転席から見えなくなってしまい、そのまま命を落としてしまうといった心配もある。

国土交通省としては、現在、夏季の輸送総点検ということで進めているが、その中でもチェック項目として入っているので、改めて車内点検をよろしく願います。

西武バス) 市内のバス停留所について報告させていただきたい。机上配付された乗合タクシーのチラシの乗降場所一覧図でいうと、一橋学園駅近くにある25番の付近でバスが走っている。小平駅と国分寺駅を結ぶ路線だが、「一橋大前」の停留所について、国分寺方面への停留所の移設を地先から依頼されていて交渉をしてきたが、代替地が見つからないため、9月1日に国分寺方面(南側方面)への停留所を廃止する予定。

利用状況としては、1日で乗車と降車を合わせて16人ほどであることは確認しているが、今回やむなく廃止の方向で進めている。北側方面の停留所は継続。

バスとタクシーのひろばについて、運輸・交通業界における担い手不足は業界全体の課題だが、このイベントは地域の公共交通を身近な存在として感じてもらい、お子さんたちが交通業界や運送業界に興味を持っていただくということでは非常に意義があると考えている。イベントに協力するための人手という点ではアップアップの状態だが、今後もできる限り協力して、地域一体となって頑張っていきたいと考えているので、これからもよろしく願います。

立川バス) 現状としては運行本数を減らさないよう企業努力をしているが、やはり運転手がいなくてアップアップの状況。今後もできる限り運行の維持をしていきたいが、万が一状況が厳しくなった場合は市にも報告、相談させていただきたい。

京王バス) 小平団地から武蔵小金井駅、国分寺駅、さらに府中市にある総合医療センターへ運行をしているが、この3路線は同じ道路を走っているところが多い。このため、路線の再編を検討している。この件に関しては小平団地の自治会にも話をして、連絡を密にとりながら、意見

もいただきながら進めている状況。

内容としては、まだ計画中だが、9月頃に国分寺駅南口と北口で医療センターと小平団地を結んでいる便を分断する方向で考えている。小平団地の自治会からは何本でもいいから残して欲しいとの要望をいただいている、要望に応えられるような形を検討しているという状況。

そのほかとしては、他社と同様に乗務員不足の状況がある。その中で今はなんとか乗り切っているが、今後は乗務員の採用の強化策を考えているところ。なんとかお客さんに迷惑をかけないように、運行本数の維持に努めていく。

関東バス) 武蔵境駅から花小金井駅を結ぶ路線については元々本数が少なかったが、昨年12月から管轄の武蔵野営業所の人数減により減便し、小平市の利用者にはご迷惑をかけている。

最近乗務員が少し増えてきたので、6月1日から一部で復便している。小平市内の路線についてはまだ減便状態のままだが、少し改善が見られたら徐々に復便していきたい。

銀河鉄道) 令和7年3月に運賃を改定した。180円均一を220円へ改定した。約20%改定したが、売り上げが20%上がるかと言えば、予想していたとおり、売り上げは上がっていない。

運賃が上がったことで、他の手段を使って移動する人が増えた。例えば、学生さんであれば、近いから歩けるという人もいて、あるいは他社へ乗り換えるなどもあり、売り上げは微増。ただ、単発で乗る人が増えたためか、現金収入という点では増えている。このように、料金を改定したことで、利用者の行動パターンが少し変わったようだ。

また、去年は減便しており、全体的に乗車人数が減ってきている。大手事業者が採用できない中、自分たちのような小さい事業者はさらに苦労しているが、なんとか今の便数を保てるよにということで、今年度は今のところ減便の予定はない。できれば増やしたいと考えているところだが、なにより採用には苦労している。

バスとタクシーのひろばでは大変お世話になっており、小平市にはお礼を申し上げたい。このイベントではスタッフも楽しませていただくとともに、非常に勉強になるので、良い機会を与えていただき感謝している。

グッズ販売では開始から30分くらいでめぼしいものが売れてしまう状況だった。何が一番売れるかという、レアな品物。例えば、廃車にするバスのイスやとか、壊れた停留所などで、いわゆるバスマニアの方々が開場と同時にそれを狙って持っていく。本来は、お子さんたちにもっとゆっくり楽しんでもらいたいと思っている。開始30分くらいはバスマニアの方々が殺気立っている、来年は小出しにして、午前と午後に分けて販売することなどを考えたい。いずれにしても大変勉強になるイベントなので、来年も協力していきたい。

公共交通事業継続支援金については感謝している。以前は、他の自治体でも支援金があったが、現在も継続しているのは小平市だけなので、今後も支援を継続していただきたい。

東京バス協会) 乗務員不足が一番大きな問題点だが、乗務員だけでなく、整備員なども人が集ま

らなくなってしまった。これは少子高齢化に起因するものなので、今後劇的に改善するとは思えない。業界としても東京都と連携もしているが、特効薬のようなものは無い。

まずは数を増やしていくための手立てとして何かないか、というのが一つ。もう一つは、いかに離職を防止するか。採用しても辞めてしまうという現状もある。その点ではカスハラ対策などについて、東京都とも連携して、働きやすい職場を作っていく必要があると考えている。ほかには、女性にも働きやすい職場となるよう、設備とかシフトとか、そういったことを含めて、まずはパイを増やしていこうということで取組を進めている。

トリーショー交通) コミュニティタクシーは高齢者の大事な足となっている。中には毎日乗車してくださるファンの方もいてくれる。当社としては、ドライバーの健康管理に重点を置き、まずは休まずに済むようにする。また事故を起こさないような教育に取り組んでおり、みんなで事故の事例などを共有している。

経営的には厳しさが増しており、オイルなどの値上げもあり、色々な工夫をして対応しているが、ここで乗務員の処遇改善をした。コミュニティタクシーは決まった運賃で乗車人数もそれほど増えない中で、どうしても公的な補助金が頼りになってしまうという状況にある。

先ほどのアンケート結果をみると、そういったことがまだ利用者に知られていない。そういった中で、土曜日、日曜日の運行を望む声があるので、もっと周知して、市民の理解を得ながら地域の足を確保していくことが大事。

西武バス労働組合) 乗務員不足の声があったが、担い手不足は運転手だけでなく、事務職も整備職も同じ状況。

小平市のバスとタクシーのひろばは大事なイベント。今回10回目ということで、第1回目のとき10歳だった子どもは今20歳になっているので、どこかのバス会社に来ていただければ嬉しい。こういった草の根運動のような試みとして開催していることはありがたい。

当初、自分はバスとタクシーのひろばの係ではなかったが、自社の者が汗をかいているのを見て営業魂が出て、今回お手伝いをさせていただいた。来年もお手伝いしようと思っている。

小平商工会) 地域公共交通会議のほか、コミュニティバス・コミュニティタクシーを考える会にも参加している。そこでは地域の利用者や商店会の方と今日と同じ資料をもとに話をしているが、地域に公共交通があるということ、そしてそれをいかに維持していくかが大事だと言っている。

運行事業者さんにおいてはオイルの値上げなど、経営が大変な中で公共交通を維持するために尽力いただいていることは重々承知しているが、利用者からは色々な声もでてくる。その中で土、日の運行の要望もあり、何か改善できることがないかといった話をしている。

人の移動は市の経済活動に直結することなので、運行事業者の皆さんや、行政の方にもよろしくお願ひしたいということをお断りさせていただきたい。

北多摩北部建設事務所) 地域の足を守るために運行事業者の方々が乗務員不足の中で努力していることが分かった。特に、これから交通弱者の方が益々増えると思うので、事業者の皆さんの存在意義、役割が益々大きくなると思う。

市道路課) 市では市道を管理しているが、工事などで運行路線にかかる場所もあり、ご迷惑がかかることもあると思いますが、引き続きよろしくをお願いします。

都市開発部長) 現在6月議会の会期中だが、一般質問において、議員からは乗務員不足の問題が大きくなっているのもっと市が支援するように指摘されている。先ほども話が出ていたが、市では事業継続支援金など、国の地方創生臨時交付金を活用して支援してきた。これからも情報を早めにキャッチして、そういった状況がある場合にはできる限り支援金を継続していきたい。それ以外にも何かあれば、公共交通課は3人しかいないが、話をいただければ協力していきたい。

都バス梅70は、沿線の4市1町で会議を設けているが、そこでも乗務員不足で苦勞しているという話が出ている。都バスだけは一昨年前までは乗務員不足という状況に無かったが、昨年苦勞しているとのこと。全国的な問題なので、何か解決方法が出てくるのではないかと早めに情報をキャッチできるよう議論している。

皆さん方による地域公共交通があつてこそ、市の公共交通が成り立つので、引き続きよろしくをお願いします。

会長) 都バスの青梅支庁に友人が整備関係で勤めているが、人員不足で休みがとれないという。とにかくギリギリの人数でやっているということを経験しており、とにかく非常に厳しい状況になっている。

国も、各自治体においても、この問題は共通認識となっていて、皆さんが考えているが、抜本的な解決策があるわけではない。そのため、できることは何でもやっていくしかない。

自分が関わっている地域でも、運転手体験会を開催したり、地方では地元でできる仕事、地元で貢献できる仕事ということでアピールして、一度東京に出た人に戻ってきてもらう、あるいは、親が年を取って、地元で働きたいと思っている人に来てもらうなど、色々なことをやっている。

本当に出来ることは何でもやっていかなければならないので、知恵を出し合いながらみんなで頑張っていきたいと思っています。

それでは、以上で情報交換を終了します。